

賢治も歩いた旧盛街道を再生中

宮沢賢治は、童話「種山ヶ原」の登場人物達二が住み、火の神や泉のある山本、また種山までの最短ルート等から、投宿先の菊慶旅館から種山ヶ原までの「旧盛街道」を何度か通ったと思われる。この街道は産業で隆盛した頃からの盛街道以前の街道で、昔から内陸「水沢」から沿岸「盛」までの交易道路、所謂「塩の道」である。旧盛街道はその後、種山ヶ原に馬や牛を放牧するためだけに使われるようになった。詳しくはこのHPの「宮沢賢治と人首」4「旧盛街道と山本」をお読みください。

岩手大学草野俊一教授を中心に「旧盛街道」を調査して以来、35年が過ぎ、「旧盛街道」を訪ねる人は歴史愛好家のみとなった。米里文化財調査委員会は、この街道にスポットをあて4年前から地区民と共に盛街道探索に取り組んできた。しかし、放牧する人の減少で、江刺区米里字山本にある七里塚からは歩く人もなく、街道が消えつつあった。後世に繋ぐために嘗て歩いたことがある人を案内人に、昨年度から街道再生に取り組み始めた。

今年5月31日山林管理代表の小成田さんから街道に生えてしまった木の伐採の許可を頂き、山本地内から種山の七里塚に向けて刈り払いをし、2kmの地点まで進んだが、立木、倒木等があり大変な作業だった。2回目は10月27日種山林道と種山にある七里塚付近から二手に分かれて作業を始めた。種山から下りて来る人たちは笹藪に悩まされ、種山林道から入った人達は大木の切断から始したが、進むうちに、35年の経過で途中道が消えていた。手分けして街道の探索をしたが、見つからず雪も降り始めたので、今年度は断念。来春、また挑戦することにした。私達の心の中には旧盛街道がずっと続いている……。

前年度少し伐採していたので、楽でした。遠くの物見山の下に旧盛街道が。

人首丸の墓碑前で



種山林道脇に案内板を設置



倒木の処理

